

キャリア教育文科大臣表彰

野口顕彰会が受賞

ジュニア科学者の翼など 青少年育成事業を評価

表彰式は
1月15日

産業社会の担い手となる青少年の育成に取り組む延岡市の野口顕彰会（清本英男会長）が、「第13回キャリア教育優良教育委員会、学校およびPTA団体等文部科学大臣表彰」の受賞団体に選ばれた。表彰式は来年1月15日、東京都の国立オリンピック記念青少年総合センターで行われる。

同表彰はキャリア教育の普及、啓発、推進を目的とし、各都道府県から推薦を受けた教育委員会や学校、PTA団体等の中から文科省が決定している。今回は教育委員会16団体、小学校20校、中学校34校、義務教育学校1校、中等教育学校1校、高等学校39校、特別支援学校6校、PTA団体等9団体の計126団体が受賞。宮崎県では同会のほか都城農業高校も選ばれた。

野口顕彰会は、2001年1月設立。旭化成創業者として工業都市延岡の基礎をつくった野口遵の功績を後世に伝えるとともに、人材育成事業を行っている。

このうち県北1市4町の中学2年生を対象にした研修事業「ジュニア科学者の翼」は設立年度から毎年実施しており、夏休み期間中3泊4日の行程で野口研究所や科学技術館（東京都）、東芝未来科学館（神奈川県）などに派遣。現地見学を通じた探求的な活動、その後の報告会におけるプレゼンテーションの機会を提

供している。

また、延岡の産業発展や野口遵の業績をまとめた漫画版「延岡新興の母野口遵」の配布、風力発電機作りの教室を開催して

いるほか、市キャリア教育支援センターなどと連携した中高生向け講座の計画も進行中。キャリア教育の充実発展に寄与する各事業、その魅力ある将来性が高い評価を受けた。

受賞決定の報を受け、清本会長は「大変うれしく思います。ジュニア科学者の翼は今年度で19回を数え、08年にも文部科学大臣から科学技術賞を受賞しています。継続してきてよかったと思いますし、誇れる事業になりました。今後も延岡の青少年のキャリア教育の充実に取り組んでいきたいと思えます」と喜びを語った。

人は温かい 食べ物おいしい 延岡を大絶賛

ラグビー・ヤマハ 合宿打ち上げも参加

延岡市で体力向上に励む(県警田市)は13日、西階上競技場で最後の練習を行い、5日間の合宿を予定通り打ち上げた。同



最後は後方の観客、旭化成柔道部と一緒に記念撮影(13日、西階陸上競技場)

リーグ(来年1月12日開幕)を前にした負荷の大きい体力トレーニングが目的で、所属する全49選手のうち47選手とスタッフの約60人が8日に来延。翌9日から過去にないほどの激しい練習を開始した。



練習後、旭化成柔道部の王子谷選手にユニホームを手渡すヤマハの山本幸輝副主将



旭化成柔道部の王子谷選手と一緒にトレーニングを行うヤマハの山村亮選手(右)。見守るのは堀川監督

筋力強化などに取り組み、午後からは西階陸上競技場でランニング系のメニューが中心のチームトレーニング。とことん体を追い込んだ。

堀川監督によると、この5日間で走り込んだ距離は40〜45キロ。通常の1週間の約2倍で、ワールドカップで新しい歴史を刻んだラグビー日本代表が今年の夏に実施した宮崎合宿並みのハードな内容になったという。

期間中は「異業種交流」もあった。合宿2日目から名門の旭化成柔道部が参加。サーキットトレーニングで一緒に汗を流し、一流同士、絆を深めた。最終日は互いにユニホームをプレゼントする場面も。同柔道部の王子谷剛志主将は「良い刺激をもらった。柔道に生かせるトレーニングもあったので勉強になった。これ機にヤマハを応援していきたい」と笑顔で話した。

2018.12.14